

バケツの話～昭和のある出来事～

中学校1年生の新学期 入学間もない生徒たち
緊張気味に先生の話聞いている

すると、突然ある男子生徒が教室の後ろにあったバケツの水を取りに行き
斜め前に座っていた女子生徒の頭の上からそのバケツの水をかけた！
騒然とする教室 慌てる先生
とりあえずその子は保健室に着替えに

その後、職員室に男子生徒を呼んで
「なぜ、あんなことをしたんだ？」と
問いただす先生
しかし、その生徒はだまってきたり、何も言わない…

小学校の先生に「あの子はどんな子ですか？」と尋ねても
「とてもいい子ですよ」と。
保護者に尋ねても「中学校に行くのをとても楽しみにしています」と。

何もわからないまま、月日は過ぎる
その後男子生徒は問題行動を起こすどころか、クラスのリーダーとして活躍

その子は、1年生の終わりに県外に引っ越すことに
担任の先生はどうしても新学期のあの出来事が腑に落ちず
修了式の日、その男子生徒にあの出来事のことをもう一度尋ねると
その子はだまってきたまま、そして静かに口を開き
「先生なら、信用できるから本当のことを話します」と。

あのとき
斜め前の女子生徒は、小学校が同じで、おとなしく気が弱いせいか、周りからからかわれることがよくあったこと。その子の足元に、我慢しきれずに流れたおもらしに気づいたこと。それを先生に伝えれば、みんなが知ることとなり、この子の中学校の3年間はとうなるだろうと、とっさに考えたのが水をかけた理由だったこと

と、語る男子生徒の話聞きながら全く想像もしなかったその理由に
担任の先生は、頭を殴られたような衝撃を受けた…

ある教員の話より

この話は、1980年代の出来事であり、今の時代にそぐわない部分もあるかもしれませんが。しかしながら、この男子生徒の自分に何ができるか考えた行動、そして、その行動の原動力となる相手を想う気持ちには、考えさせられるものがあるのではないのでしょうか。

あらゆる差別の解消には、「差別は許さない」と行動できる人の存在が重要です。わたしたち一人ひとりが、「偏見や差別は許さない」という姿勢を子どもたちに示せるよう、確かな認識につながる学びを積み重ねることが必要なのです。ぜひこの資料を活用してください。



もっと学ぼう！



シリーズじんけん
(市報掲載)



みんなのねがい
(10・2月全戸配布)

大分市教育委員会 教育部 人権教育推進課
〒870-8504 大分市荷揚町2番31号 (097)537-5651

2025年度版 発行：大分市教育委員会